

湾口防波堤の整備推移

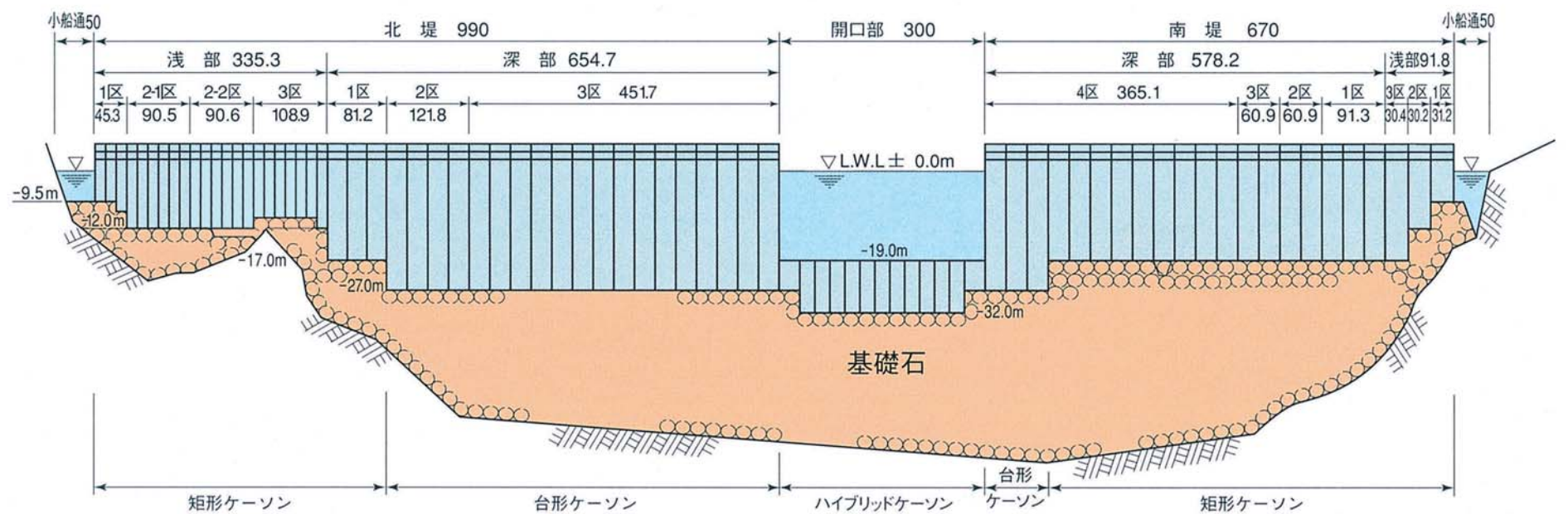
年	事項
昭和43年	釜石市議会より県に対し、湾全体の防災対策の実施を要望。
47年 7月	水際防潮堤(+4.0m)に着手。
48年10月	釜石湾津波対策委員会設置(岩手県)。
50年 9月	釜石湾津波対策委員会より答申。
50年10月	実施設計調査費により調査開始。
52年11月	港湾審議会第80回計画部会において計画が決定。
53年 4月	直轄事業として着手。
53年 4月	第二港湾建設局宮古港工事事務所釜石工場開設。
53年 5月	漁業補償解決。
53年 7月	釜石港湾口防波堤建設起工式。
56年12月	平田石材積出場完成、深部投石開始。
57年 7月	北堤浅部2-1区ケーソン据付開始。
57年 7月	釜石港湾口防波堤着工式典。
昭和58年 5月	投石投入船「栗駒丸・たちがね」船団就航。
59年 2月	泉地区作業基地着手。
60年10月	捨石均し機現地実験。
61年 3月	クロスファンビーム式高精度測量システムの導入。
63年12月	泉地区作業基地概成、北堤深部3区ケーソン製作開始。
平成元年 9月	泉地区作業基地完成。
元年10月	捨石均し機による均し開始。
2年 1月	北堤深部3区ケーソン据付開始。
5年 7月	開口部ケーソン1号函据付。
9年10月	南堤ケーソン1号函据付。
12年 8月	ケーソン50函据付。
16年10月	南堤ケーソン最終函据付。
17年 2月	南堤概成記念式典。
18年 7月	北堤最終函据付。
18年10月	北堤概成記念式典。

釜石港湾口防波堤の概要

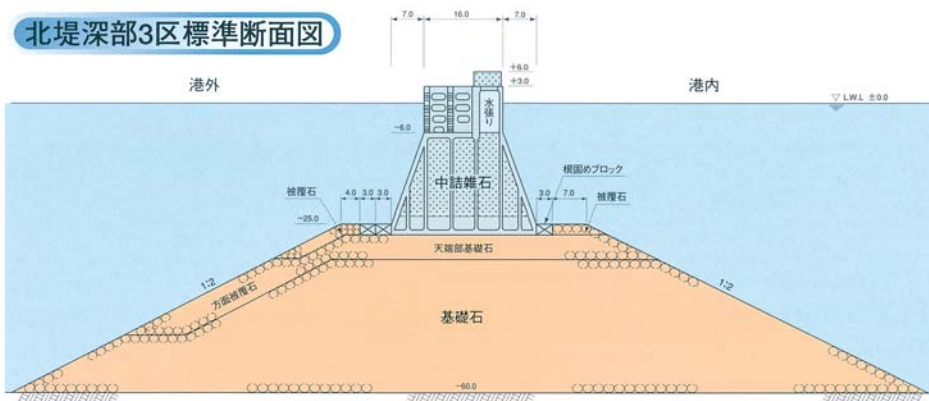
概要説明

「釜石港湾口防波堤は、古くから数多くの津波に襲われ尊い人命と貴重な財産を奪われてきた釜石湾の対策として、昭和53年から世界最大水深(-63m)に設置される湾口防波堤として建設がスタートしました。防波堤として初めて耐震設計が取り入れられており、来襲津波に対して港内水位を防潮堤天端(T.P+4.0m)より低い水位に減衰させることで背後生活圏への進水を防ぐこととなっています。(※必ずしも完全に防げるものではありませんので、避難指示には従って下さい。)」

湾口防波堤縦断面図



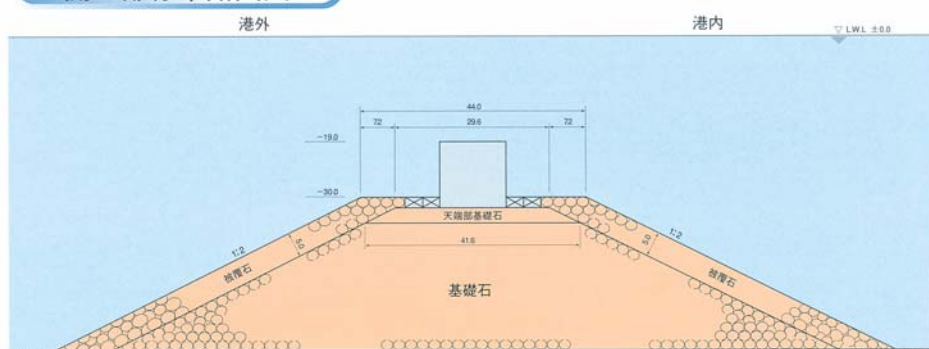
北堤深部3区標準断面図



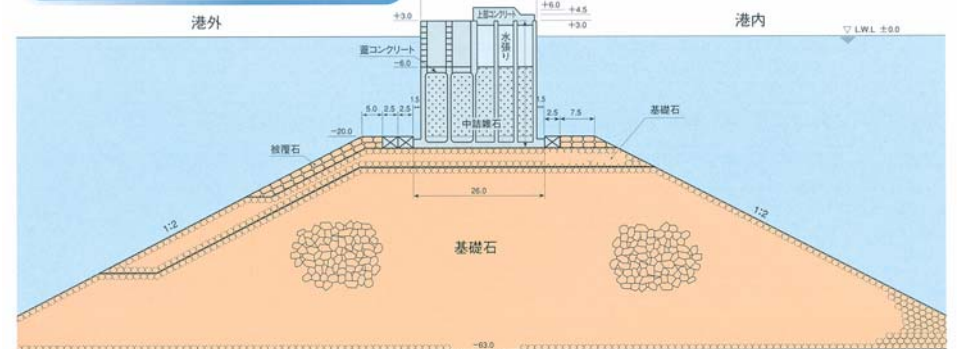
北堤浅部3-1区標準断面図



開口部標準断面図



南堤深部4区標準断面図



●●●●● ケーソン製作 ●●●●●



◆ケーソン製作開始前 (FD 6,500t積)



◆海上打継コンクリート打設 (5~12段目)



◆コンクリート打設 (FD 1~4段目)



◆海上打継型枠組立



◆FDでの製作完了・進水準備



◆海上打継完了・浮上・移動・仮置



◆進水・仮置開始



◆ケーソン製作完了 (最終仮置場)

●●●● ケーソン据付 ●●●●



◆ケーソン内排水・浮上(最終仮置場)



◆中詰材投入



◆タグボートによる曳航



◆蓋コンクリート打設



◆据付開始(ワイヤーリング作業)



◆上部コンクリート打設(暫定)

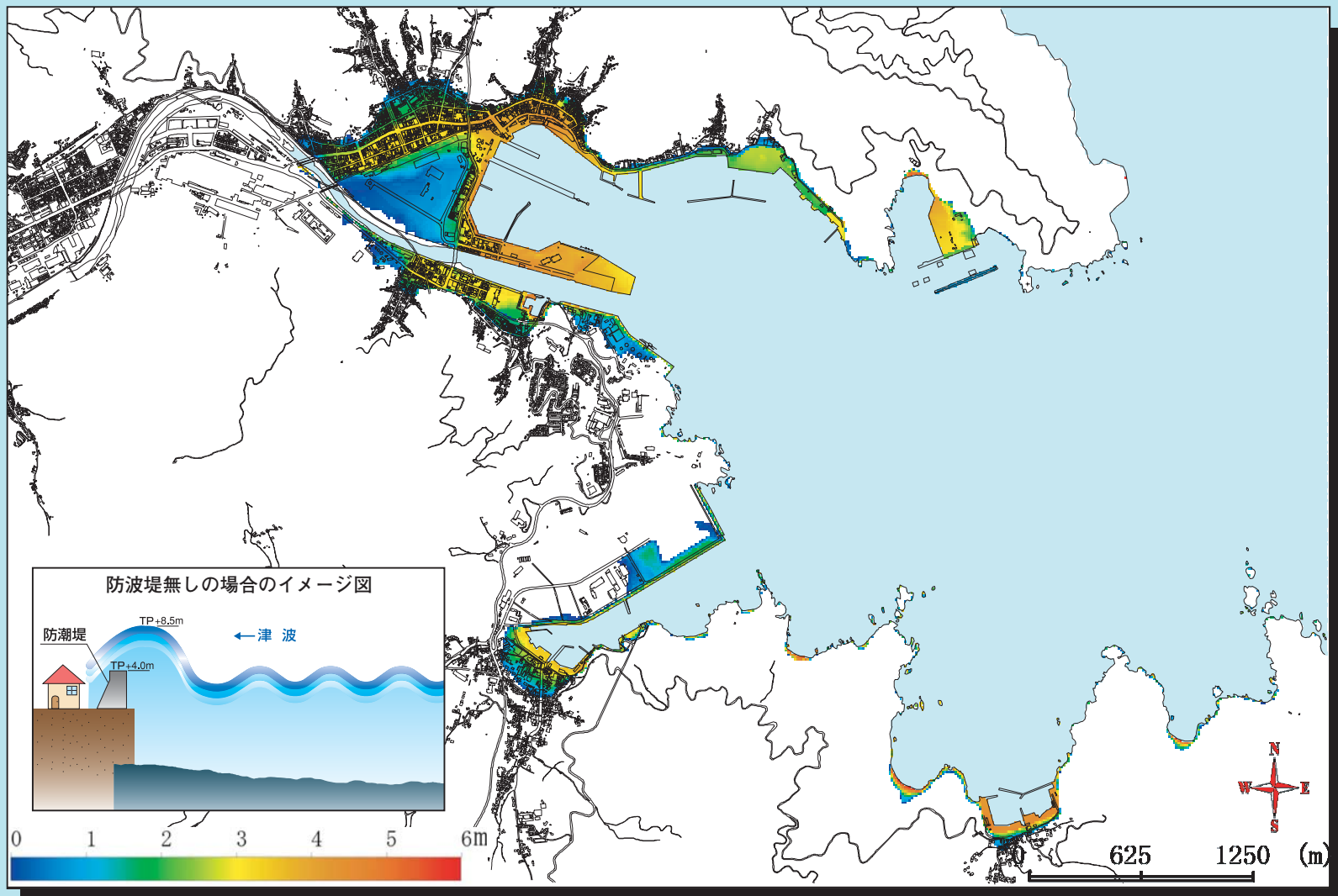


◆据付位置決め・注水

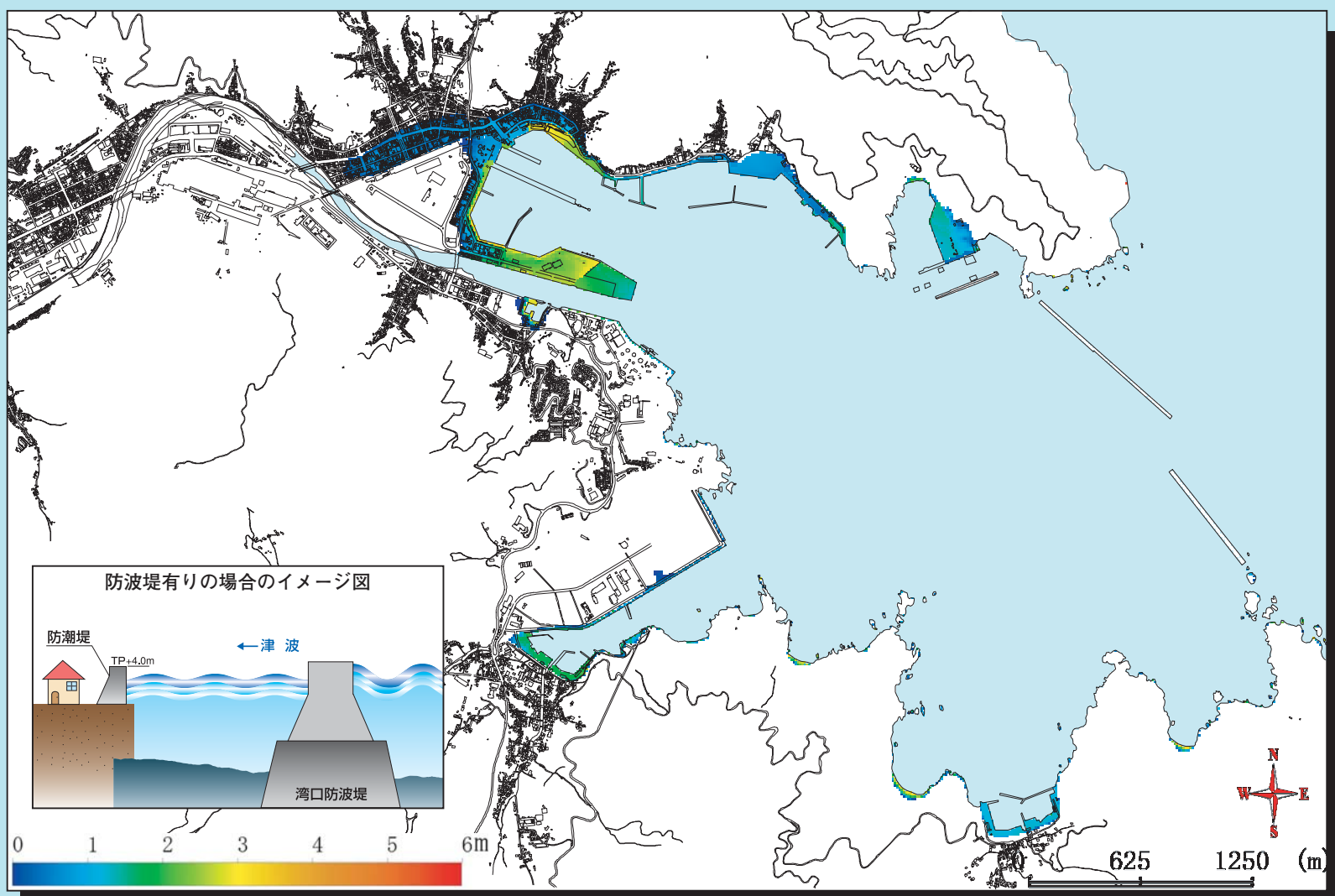


◆完成

釜石港湾口防波堤の整備効果



最大津波浸水深分布（湾口防波堤無し）



最大津波浸水深分布（湾口防波堤有り）

※湾口防波堤整備効果としては、津波浸水面積を141ha→25haへ縮小することが出来る。

また、湾奥市街地への浸水が一番懸念されるが、防潮堤を越えた津波が市街地へと浸水したとしても浸水深は0.5m程度と予想されるため、被害は最小限に食い止められる。

※データは、明治29年(1896年)三陸沖地震(マグニチュード8.5)で発生した津波を想定条件として計算しています。

津波によっては浸水範囲が変化する場合もありますので、避難指示に従って下さい。

釜石港の変貌

釜石港の移り変わり



1977年(昭和52年)



1995年(平成7年)



2006年(平成18年)

平田地区の移り変わり



1970年(昭和45年)

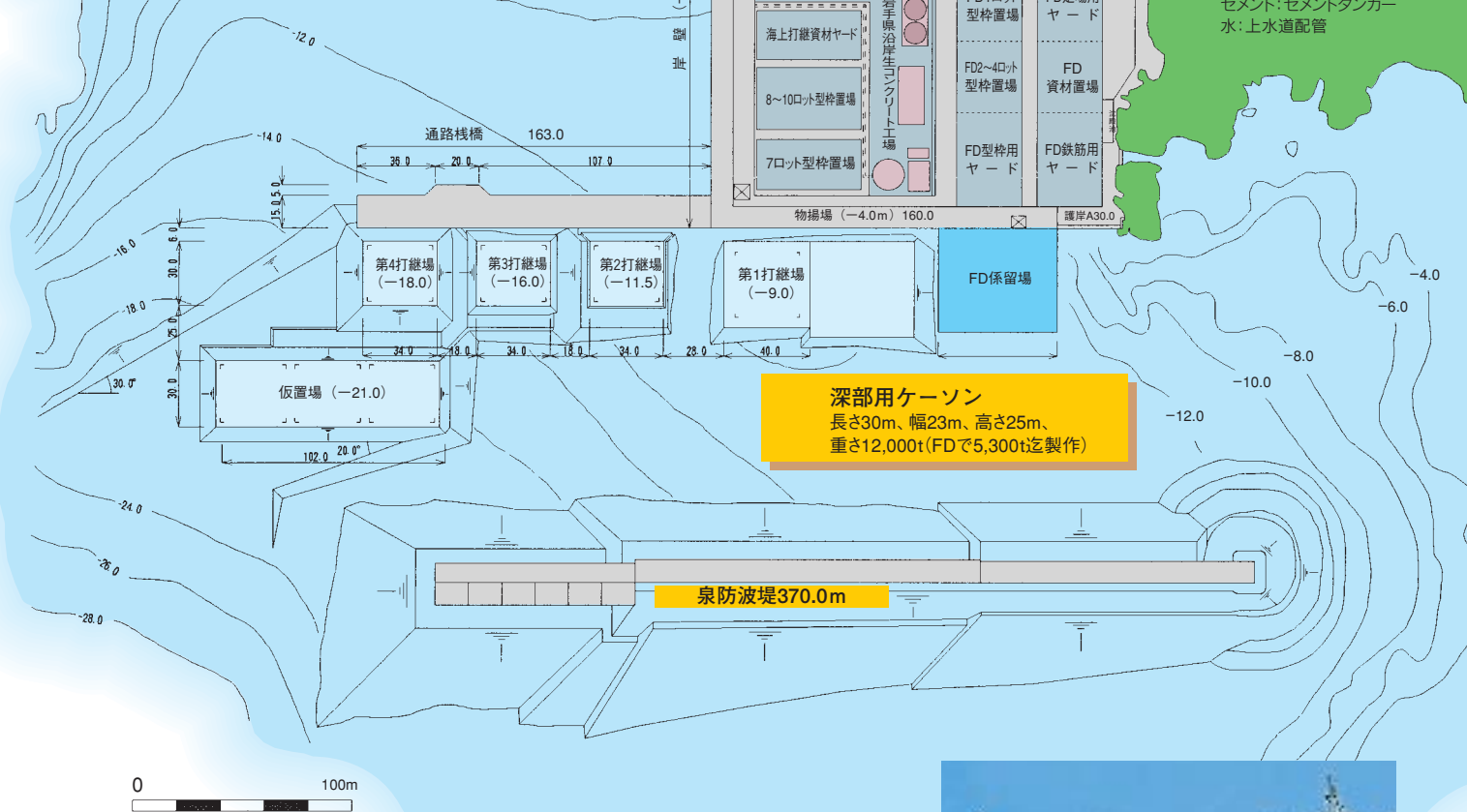


1986年(昭和61年)



2006年(平成18年)

泉作業基地



- ・ケーソン製作
- ・根固めブロック製作
- ・築造工事資材置き場

生コンクリートプラント
 コルゲートサイロ
 砕砂1,000m³
 25砕石1,000m³
 40砕石200m³
 セメントサイロ1,200t
 ミキサー1.5m³
 出荷能力90m³/h
 細相骨材：公共埠頭から運搬
 セメント：セメントタンカー
 水：上水道配管

大型交通船(観光船はまゆり)

釜石市の双胴型高速観光船です。
 観光遊覧のほかに朝と夕方、泉作業基地で働く人たちの送り迎えも行っていました。



深部用ケーソン製作フロー図

